社会福祉法人塩釜市社会福祉協議会
令和３年度第３回小規模多機能型居宅介護松ぼっくり運営推進会議
議事録

１．　日　時　　令和３年 11 月 29 日（月曜日）
　　開会　午後５時 30 分～　閉会　午後６時 19 分

２．　場　所　　小規模多機能型居宅介護松ぼっくり

３．　出席者　　遠藤春夫　三上長治　永野やすえ　阿部幸　石村要
　　（委員総数６名中５名出席）

　　松ぼっくり
　　吉田所長

　　社会福祉協議会
　　山本次長　曽根課長

　欠席者　　欠員１名

1.開　会

2.協　議　（要旨）

① 利用状況

・ 現在 18 名登録。女性 13 名、男性５名。
・ 要支援１　１名　　要支援２　１名　　要介護１　12 名
　要介護２　３名　　要介護３　２名　　要介護４　０名
　要介護５　０名

（資料を詳しく説明した）

② 運営状況

・要介護度１が大半を占めている。うち、認知症加算取得者は６名。
・全体での認知症加算取得者は９名。この加算は認知症自立度Ⅲ以上の方とされており、日常生活に支障をきたす行動や意思疎通の困難な方などであ

る。
・新規利用者の傾向は、外出をしない、社会的交流を拒む、家にも入れたがらないという相談から始まることが少なくない。訪問介護を利用していて、ヘルパーが訪れても拒否し、何度も訪ねることになってしまう。1回毎に料金がかかるサービスに馴染まない。通所介護を利用していても迎えに行ったところで拒否され、何度も迎えに行くことも難しい。小規模多機能は定額制であり、何度行っても支払いに影響がないのでメリットがある。先ほど行ってきた利用者は、独居で病院にも行かない、服薬管理もできなく、遠方に住んでいる家族が心配をしていた。半年をかけて職員と馴染みの関係を築き上げ、やっと薬を飲んでいただけるまでになった。その方はすぐに薬局へ行く癖があり、薬局へ薬を預けて渡してもらえるように連携を図っている。
・職員不足が顕著であり、新規利用の受け入れを休止している。現状のサービスを維持することに重点を置いている。
・訪問サービスの提供回数が増加の傾向にある。宿泊サービスも金曜を除き行っているが、対応できる職員が4名しかおらず苦慮している。

③ ケース報告（徘徊のあるY様の状況）

・北2包括からの紹介で利用開始。これまで通所介護を利用していたが、馴染めなかった。息子と同居しているが、急な夜勤も多々あり、独りになることを心配している。松ぼっくりでは落ち着いていたが、先週、徘徊があった。結局、松島の交番で保護された。タクシーで移動したが運転手の機転により保護となったようだ。GPSを持たせるなどの対応を検討している。

④その他

・10月より職員の抗原検査を実施している。

（遠藤委員）
町内会が何をできるのか常に模索している。今、問題となっているのが高齢者対策。これまでは各種行事を通じて、コミュニケーションを図ってきたが、コロナによりそれができなくなっている。コロナも落ち着いたところで、来年度は行事をこれまで通り開催して、高齢者の支援をしていきたい。

（三上委員）
昨日、加瀬沼公園に行ったら高齢者施設の利用者が来ていた。コロナの

影響がだいぶなくなってきたと感じた。

（阿部委員）
あるデイサービスでは「道の駅に行った」と聞いている。フェイスシールドを着用してのカラオケ大会を行ったとの施設もあった。

（吉田所長）
声を出さないと気持ちも沈む。松ぼっくりも少しずつ元に戻していきたい。

（永野委員）
先日、叔父が亡くなった。その叔父は介護認定を受けずに亡くなったが、それが果たして良かったのかどうか難しいところだ。介護サービスを勧めても頑固で受け入れなかった。お金のことを心配したのかもしれない。また別の方で、奥様が旦那を看ており、介護サービス利用を勧めても「自分で看なくてはならない」という思いが強い。老老介護であるので共倒れになるのが心配である。そのような方々がたくさんいる。

（阿部委員）
何度相談しても介護サービスにつながらない方は多い。ケアマネジャーは介護サービスにつながらないと収入にならない。でも国ではなるべく介護サービスを使わないように言っている。矛盾している。

（永野委員）
楽な方を選べばいいのに、奥様が全部背負ってしまっている。時間をかけて説得してみる。

（阿部委員）
北部 2 地区包括で初めて広報紙を作った。
（資料「まるごと 2 地区」を説明した）

（阿部委員）
介護施設に入所している方がいて、介護度が軽くなり施設を退所しなくてはならなくなった。認定期間は 11 月 30 日までで、先週ようやく新しい認定が出て要支援の判定だった。家族が困って包括に連絡をもらったが、時間的に厳しい。コロナ禍で認定調査日に家族が立ち会えず、施設のケアマネが上手に説明しなかった可能性もある。家族の気持ちを代弁する努力を怠ったと思う。家族に電話をするとか方法があったはずだ。

（石村委員）
認定が軽く出た場合、納得されないケースはある。介護保険は法律があって実施しており、ルールで動くしかない。でも福祉は人相手。本人や家族が納得するやり方を求めなくてはならない。
永野委員の「お金を心配して介護サービスを受けないのかも」という話の件、施設に入ると年金だけでは足りない。仕方がないと割り切るしかない。来年、市内の 100 歳以上の方は 34 人になる。介護も必要だし、元気な高齢者数を維持することも必要。
コロナワクチン接種は、先週でひと段落となった。3 回目は 8 カ月後を目途に行うが、集団接種をするのか個別接種となるのかは未定。
また、おかげさまで塩竈市は市制 80 周年となった。今後ともよろしくお願いいたしたい。

（山本次長）
介護認定更新に伴い、我々が運営している特別養護老人ホームを退所せざるを得ないケースがあった。思いの外、軽い認定が出てしまった。市役所や CM 事業所の協力を得ながら次に繋ぐことはできたが、予想よりかなり軽く認定が出る傾向にあると思う。いずれにせよ、軽く出そうな方には注意を払って認定調査を受けなければならない。一次判定のシステムが変わっているのではないか？

（石村委員）
判定方法に変化はない。統計的に見ると、要介護度 5 は減少しており、要支援 1 は増えているようだ。指摘のように軽い方が多くなっているが、判定はルールに基づき正しく行っている。

（阿部委員）
数値的なものではなく、特記事項を重視して欲しい。

（吉田所長）
認定審査会はコロナの影響で書類のみか？

（石村委員）
現状はその通りだが、そろそろ対面での開催になりそうだ。

（吉田所長）
審査会の委員を以前任せられていたが、特記事項については、話しをしながら検討して最終的な介護度が決まっていた。それが無くなると数字的なものだけで介護度が決まり、経験を踏まえて上げる下げるの検討が

なされない。

（石村委員）
現場の皆さんが感覚的に軽いと言うのであれば、間違いではないのだろう。役所内の会議で報告したい。

（吉田所長）
コロナの影響により、区分変更が増えたとか、そういう感じはするか？

（石村委員）
それはない。国の通知により認定期間を延ばす方向にはある。コロナで外出しないと重度化するのか、分析が必要と思う。

（阿部委員）
通所を控える方はいたが、割とすぐに通所を再開する傾向にあったので、重度化までは行っていないと思う。

（永野委員）
市の温水プールによく行くが、高齢者の方々が多い。各々のレベルに合わせたプログラム、教室があり、良いことだと思っている。これまでは職員が監視だけをしていた。今日も定員を超える方が集まっていた。

（石村委員）
気軽に行けるきっかけとなっているのではないか？

（永野委員）
参加者は互いに励まし合いながら、目標に向かって取り組んでいる。

（吉田所長）
社協ケアマネ事業所の新規相談は 90 歳代が多いと報告があった。以前は、70～80 歳代だった。90 を超えるまで元気で暮らせている証拠だ。

（永野委員）
高齢者の健康意識の高まりを感じる。

（遠藤委員）
町内会も高齢化が進んでいるが、特に女性は元気である。社交的にいろいろな所に顔を出しているのが、良いのだと思う。

次回　令和 4 年 1 月 28 日（金）17:30～